

脱・独り言

第9期OB 竹内 亮介

2020年4月以降、コロナ禍により多くの大学生が、オンライン授業の受講を余儀なくされています。私が教員として勤務している東洋大学でも、ゼミなどの少人数授業を対象に対面授業再開の流れは強まっていますが、履修者が数百名に及ぶ講義科目は、引き続きオンデマンド形式（教員が動画を事前に準備して、学生の都合の良い時にその動画を視聴してもらう形式）で実施されています。私自身が約2年間にもわたり、オンデマンド形式のオンライン授業を実施してきたということもあり、Yahoo!ニュースをボーッと眺めていると、大学生が孤独感を募らせているというニュースや記事が自然と目に入ってくるようになりました。例えば、「コロナ禍 深まる孤独・孤立『私は何者』自問する学生 オンライン授業 友達できず」と題された記事では、以下のような大学生の声が紹介されています（2021年8月22日 山陰中央新報デジタル <https://www.sanin-chuo.co.jp/articles/-/82666> [2022年4月3日最終アクセス]）。

「当たり前の大学生を送りたいだけなのに」

「SNSで仲良くなった大学の友達はある。でも、会ったことはないし、顔も名前も知らない」

「なんのために大学に入ったんだろう」

「これ以上苦しめないで」

「世界には自分1人しかいないんじゃないか」

このように悲痛な気持ちを学生が持たないようにと、授業用アプリを通して履修者の意見を集約してラジオパーソナリティ風に紹介したり、課題の量を極力減らしたり、自分なりにいろいろと模索した2年間でした。特に最も印象的なのは、パソコンに向かって1人で講義を行うこと、いわば約90分間独り言を発し続けることの虚しさです。授業開始直後は意気揚々と喋っていても、数十分が経過すると、「この授業に関わっている人間は、自分1人しかいないんじゃないか」という気分になったことは数え切れません。現在の大学生が抱える悲痛を完全には理解してあげられないかもしれませんが、「世界には自分1人しかいないんじゃないか」と感じた上記の大学生の感情と似通ったものもあるかもしれません。

このように長時間の独り言に疲弊していたところでしたが、東洋大学では2022年度春学期から、長らくオンライン授業だった講義科目も対面で実施されることになりました。大教室での講義の感覚を少し忘れてしまいましたが、この春からは、毎回約90分間の独り言を繰り返さなくて良いことの有難みを感じながら教壇に立ちたいと思います。